

## 「能代風力発電所設備更新計画に係る計画段階環境配慮書」に対する環境大臣意見

本事業は、東北自然エネルギー株式会社が、秋田県能代市に設置済みの能代風力発電所(総出力14,400kW)において、風力発電設備の更新により、最大で総出力約20,700kWの風力発電所を設置するものである。

本事業は、再生可能エネルギーの導入・普及に資するものであり、地球温暖化対策の観点からは望ましいものである。一般的に、風力発電設備の更新は、既存の道路、送電線等を利用することにより、新設に比べ、土地の改変等による環境影響が限定的であると考えられる。また、既設風力発電設備等の設置・稼働に係る環境の状況を適切に把握することにより、事業による環境影響を事前により正確に評価することが可能であると考えられる。

本事業の事業実施想定区域内には、森林法(昭和26年法律第249号)に基づく保安林が存在しているほか、事業実施想定区域の周辺ではチュウヒの生息及びガン・カモ類の飛翔が確認されていることから、本事業の実施に伴うこれらの自然環境への重大な影響が懸念される。

また、事業実施想定区域の周辺には複数の住居が存在しており、工事中及び供用時における騒音及び風車の影による生活環境への影響が懸念される。

さらに、事業実施想定区域の周辺においては、複数の他事業者による風力発電所が稼働中又は環境影響評価手続中であることから、累積的な影響が懸念される。

これらを踏まえ、本事業計画の更なる検討に当たっては、以下の措置を適切に講ずることにより、対象事業実施区域の設定及び風力発電設備等の配置等を検討すること。また、それらの検討の経緯及び内容については、方法書以降の図書に適切に記載すること。

## 1. 総論

### (1) 対象事業実施区域の設定等

対象事業実施区域の設定並びに風力発電設備及び取付道路等の附帯設備(以下「風力発電設備等」という。)の構造・配置又は位置・規模(以下「配置等」という。)の検討に当たっては、既設風力発電設備等の設置の際に行った環境影響評価等の結果と現在の状況を比較し、既設の風力発電設備等の設置による環境影響を検証した上で、計画段階配慮事項に係る環境影響の重大性の程度を整理し、反映させること。

また、風力発電設備等の配置等の検討については、既存の道路、送電線等を利用すること等により、これらを新設する場合に比べ環境影響を低減することが可能な場合には、その利用等を考慮し行うこと。

### (2) 累積的な影響

事業実施想定区域の周辺においては、複数の他事業者による風力発電所が稼働中又は環境影響評価手続中であることから、累積的な影響が懸念される。このため、今後、環境影響評価図書等の公開情報の収集や他事業者との情報交換等に努め、累積的な影響について適切な予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、風力発電設備等の配置等を検討すること。

### (3) 事業計画の見直し

1.(2)並びに2.により、騒音等及び風車の影による生活環境への影響並びに鳥類に

対する影響を回避又は十分に低減できない場合は、風力発電設備等の配置等の再検討、対象事業実施区域の見直し及び基数の削減を含む事業計画の見直しを行うこと。

#### (4) 工事計画の検討

事業実施想定区域にある既設風力発電設備の撤去は、本事業における一連の工事とされていることから、本事業の工事計画の検討に際しては、撤去に係る環境保全を含めた適切な検討を実施すること。

#### (5) 環境保全措置の検討

環境保全措置の検討に当たっては、環境影響の回避・低減を優先的に検討し、代償措置を優先的に検討することがないようにすること。

また、風力発電設備の更新については、現況からの環境影響の増加分のみに着眼することなく、現況の課題も踏まえた上で、本事業の実施による環境影響の回避・低減のための環境保全措置を検討すること。

## 2. 各論

### (1) 騒音等に係る環境影響

事業実施想定区域の周辺には、複数の住居が存在しており、工事中及び供用時における騒音による生活環境への影響が懸念される。このため、風力発電設備等の配置等の検討に当たっては、「騒音に係る環境基準の評価マニュアル」(平成27年10月環境省)及び最新の知見等に基づき、住居への影響について適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、風力発電設備等を住居から離隔すること等により、騒音等による生活環境への影響を回避又は極力低減すること。

### (2) 風車の影に係る環境影響

事業実施想定区域の周辺には、複数の住居が存在しており、供用時における風車の影による生活環境への影響が懸念される。このため、風力発電設備の配置等の検討に当たっては、住居への影響について適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、風力発電設備を住居から離隔すること等により、風車の影による生活環境への影響を回避又は極力低減すること。

### (3) 鳥類に対する影響

事業実施想定区域の周辺ではチュウヒの生息及びガン・カモ類の飛翔が確認されている。このため、本事業の実施により、風力発電設備への衝突事故、移動経路の阻害等による鳥類の生息及び渡りへの重大な影響が懸念されることから、これらを回避するため、風力発電設備等の配置等の検討に当たっては、専門家等からの助言を踏まえた適切な調査及び予測を行い、影響を評価するとともに、その結果を踏まえた検討を行うこと。